



JAMCA ニュース

No.111

2021年10月1日

発行
協会事務局

編集事務局

全国自動車大学校・整備専門学校協会
〒160-0015 東京都新宿区大塚町31
ヴィップ新宿御苑 ☎03-3356-7066
〒125-0002 東京都葛飾区西亀有3-28-3
☎03-3601-2535 FAX 03-3601-2988
ホームページアドレス <http://www.jamca.jp/>

次世代自動車社会に期待される自動車整備技術者

専門学校 静岡工科自動車大学校 理事長
全国自動車大学校・整備専門学校協会 副会長

平井 一史

100年に一度の変革期と言われているなか、自動車整備業界も大きな転換期を迎えています。自動ブレーキなど先進の安全技術を搭載した自動車の急速な普及、また自動運転技術の開発も加速していきます。今後、更に全ての各装置に多くの電子技術が搭載され、単なる自動車ではなく、タイヤが装着されている走るコンピュータ（電子制御自動車）の時代が数年後には現実化するでしょう。

現在、自動車にはシステムごとに沢山のコンピュータが搭載されており、それぞれが自己診断機能（OBD）を持っています。自らのシステムについて常に監視し、装置が故障したときにはドライバーに故障を知らせるための警告灯が点灯したり、故障の種類を表すコードを記憶する機能などもあり、これらの自動車の搭載されたコンピュータの情報を呼び出すためにはスキャンツール（外部故障診断機）を接続し、車両の状態を表示する「データモニタ機能」をはじめ多くの機能があり、今後、更にその機能の充実が図られて行きます。したがってスキャンツールを使用しなければ解決しない作業が数多く存在することになり、スキャンツールは高機能で便利で文字通り無くてはならない機器になっていますので、その能力をどれだけ引き出せるかは、結局、それらを取り



扱う自動車整備技術者の資質次第ということになります。

今後、自動車整備技術者として求められるものは、「新たに何の知識を身につけて行くか」ということです。それは今の状況と今後を踏まえ、日々を漫然と過ごすのではなく、「今」何をやるべきかを見定め、自動車最先端技術の進歩や変化に柔軟に対応できる高度な技術者を目指すことです。これまでの経験や勘などの定性的な診断や整備は通用せず、AI（人工知能）技術を含めた電子制御への対応が不可欠となり、適切な診断等によりエビデンス（根拠）を元とした定量的な診断技術という新たなノウハウが必要になります。一方、環境の変化に伴い、これまでの古い車両や部品の処理も考えなければなりません。これからは時代に即した新しいものへの向上心と古いものへの理解や処理能力、その場での咄嗟の判断力や、その場に即した柔軟な対応力なども求

められるので、今まで以上に自動車整備技術者への期待度は大きいものになります。

すでに自動車の点検・整備は「勘や経験で直す」時代から、「コンピュータで診断する」の時代に移り変わり、スキャンツールや電子マニュアルを使用した電気・電子的な知識と整備技術の融合が必要不可欠になり、これら高度化した運転支援システムを適切にメンテナンスするには安心・安全・環境に精通した高度な知識・技術は勿論のこと、人間力を兼ね備えた自動車整備技術者の輩出を社会が求めています。

まさに一級自動車整備士が自動車の診断・点検・整備・検査業務における高い知見と高度な技術に加え、マネジメント力を兼ね備えていますので、次世代自動車のトータルメンテナンスができる希少価値のある技術者と言えるのではないのでしょうか。

CONTENTS

- 2面 拡大するEV モータースポーツの世界
- 3面 クルマ大好き！・活躍!! 女子! 卒業生
- 4面・5面 一級自動車整備士への登壇門 インターンシップの現場から
- 6面・7面 協会トピックス・地区通信
- 8面 私の教材活用・お知らせ・編集後記